

(株) オンビート

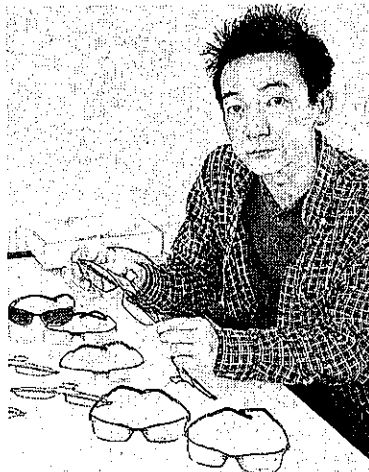
北陸企業の針路

オンビート

国際的な眼鏡の展示会で、を除いてすべての部分は毎年、斬新なデザインの眼鏡が発表されるが、基となる合金製の板から作られる本格的な部品の種類や組み合わせは昔からほとんど変わっていない。そんな市場に金型不要の製法で新風をもたらしたのが眼鏡メーカー、オンビート(福井市、高田政和社長)だ。開発から納品までの期間を大幅に短縮し、在庫リスクを最小限に抑えた事業で攻める。

金型不要製法による第1弾の製品は2011年秋に投入した「Onbeat 300シリーズ」。パッド(鼻当て)とモダン(耳当)の遠藤雄光氏。「今までの

眼鏡枠製造、金型不要に



切り抜いたばかりのチタン合金製眼鏡枠を手にするデザイナーの遠藤雄光氏(福井市のオンビート本社)

軽量化、開発期間も短縮

工程にこだわらな限り、開発・製造時間の短縮はできない。発想は折り紙に近い」と語る。余分な部品がないから眼鏡枠単独の重量は4ヶ月前後と、一般的なチタン合金製の眼鏡の3分の1程度しかない。長時間かけていても

5分の1程度に短縮したことになる。加工時間の大部分は県内企業に外注している塗装の工程だ。高田社長は「流行するデザインが分かっているから製作に取りかかることができ、ため、販売のチャンス逃さない」とメリットを強調する。金型がないため、コストを気にせず1本の眼鏡枠か

デザインの制約、克服カギに

オンビートは2006年に高田社長や遠藤氏ら4人が福井県内の眼鏡メーカーから独立して設立した。11年12月期の売上高は約1億円と、零細企業が多い福井の眼鏡メーカーの中でも小さな部類に入る。しかし同社を訪れて驚くのは、他の眼鏡メーカーとは大きく異なる現場の風景だ。「300シリーズ」は工程数が少なく、工作機械を使った切削や溶接といった作業がないため、明るく整然とした作業環境ももたらした。同シリーズは今後海外でも販売する考え。今後、製品に広がりを持たせられるかどうかは、一枚板の切り抜きという製法につきまとうデザイン上の制約をどれだけ乗り越えられるかにかかっている。

(福井支局 小山隆史)

工程にこだわらな限り、開発・製造時間の短縮はできない。発想は折り紙に近い」と語る。余分な部品がないから眼鏡枠単独の重量は4ヶ月前後と、一般的なチタン合金製の眼鏡の3分の1程度しかない。長時間かけていてもは4〜5カ月。これに比べられる通常の眼鏡枠の開発期間は在庫リスクが小さいため、価格も抑えられる。世界にすでに釣りのサンケラひとつしかないフルオーダーの眼鏡枠を作っても価格画が固まった。その後もゴルフ用などを投入する予定。同社では新しい製法により、眼鏡枠の年間販売本数がこれまでの1500、2000本から6000本に増えることを期待している。

北陸

金沢支局 076-12332-13331
富山支局 076-14332-14463
福井支局 0776-1222-13490